

幼保・小・中・「高」の連携、今も、これからも

校長 三浦一富

今月の14日(木)に、羽茂高等学校主催で開かれた「地域の声を聞く会」に参加させていただきました。羽茂高等学校の学校評議員をはじめとする地域の方々、そして南部地区等の学校関係者(小・中校長)15名ほどが集まりました。これにホスト役である羽茂高等学校の校長先生、教頭先生並びに職員の皆さんを合わせて30名弱の会でした。

南佐渡中学校区の3か校＝小木小学校、羽茂小学校、南佐渡中学校では、小・中連携に止まらず、小木保育園・幼稚園、羽茂こども園、そして羽茂高等学校との連携を大事にした活動に取り組んでいます。職員同士も夏に交流会を実施し、つながりを深めています。今回も、その一環として参加させていただきました。

互いに学んでいる場所は違っても、これからの佐渡を担う世代の子どもたちが、自分の郷土を愛し、誇りに思う。そして、そのことを積極的に発信していく。そのような連携・交流活動をこれからも深めていきたいと思います。この願いを踏まえた貴重な情報交換の場となりました。

話題の中で、私が一番関心をもったのが、これからの佐渡の将来を見据えた人材育成についてです。高等学校卒業後の進路選択は、様々あります。「佐渡を一回離れると、佐渡のよさを改めて実感できる。」だから、「技術を身に付けて、佐渡へ帰ってほしい。」また、「一端島外へ出ても、将来は帰って来て佐渡に関わりたいと願っている者も多い。」そうであるならば、「地元に戻って来れる職場を含めた環境整備が必要だ。」加えて、「英語やコンピュータのスキルを使っての仕事づくりも大切になる。」などなど・・・。

このようなやり取りの中、私は、小学生の内から進路の見通し図をもたせる必要があることを感じました。夢の実現に向けて、具体的にはどのような進路を目指したらいいのか、ということです。例えば、学校の先生になるなら、教員免許状を取らなければなりません。そのためには、実際の進路としてどうすればよいのかを知る必要があります。

羽茂高等学校の吉田校長先生は、高校生の進路選択の現場に長く関わって来られた方です。吉田校長先生からも、「ぜひ小木小学校へ出掛けて行きたい。」と仰っていただいています。小木小学校へお越しいただき、中学校への進学はもとより高等学校を経ての進路選択のお話を、まずは高学年の子どもたちに聞かせる機会がもてたらと考えています。